

スウェーデンと日本の 高齢者の生活を見つめて



2020年

3月7日(土) 午後2時30分～4時30分(開場:午後2時～)

会場:サンパール荒川 5階 第7集会室(地図参照)
対象者:認知症高齢者の生活、高齢者が集う場における
アートに関する取り組みに興味・関心のある方
定員:70名(参加費無料・お申し込み順)

申込:2020年2月10日(月)～
締切:2020年3月3日(火)
参加申請:裏面のFAXにて
※完全予約制

プログラム

第1部 基調講演 講師 塩崎由美子氏(約50分)

第2部 トークディスカッション<意見交換・質疑応答>(約50分)

アドバイザー:塩崎由美子氏(講師)

江口三岐子氏(銀の杖 荒川区認知症の人を支える家族の会 代表)

阿部哲夫氏(あべクリニック東京都認知症疾患医療センターセンター長)

モデレーター:近藤康寛氏(あべクリニック東京都認知症疾患医療センター副センター長)



● 塩崎由美子氏
(美術家)

アクセス



サンパール荒川(荒川区民会館)
住所:東京都荒川区荒川1-1-1
※駐車場のご利用はできません。

【問い合わせ・連絡先】

医療法人社団讃友会あべクリニック
東京都認知症疾患医療センター

TEL 03-5615-3020(お申込みは裏面FAXにて)

講師 塩崎 由美子 氏

基調講演

トークディスカッション

埼玉県浦和市（現さいたま市浦和区）生まれ。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業後、1993年に文化庁在外海外派遣員として英国とスウェーデンに学び、ストックホルム王立工科大学等で客員芸術家として制作し、写真とホログラフィを使った独自のスタイルを確立し、日本国内外で多くの個展・グループ展を開催、活動を展開している。ワークショップ等にも力を入れ、近年は「病院とアート」等と題する、「スウェーデンでの『医療の場におけるアートへの取り組み』」についてのセミナーをさいたま市民医療センター、みなとみらい赤十字病院、スウェーデン大使館、東京都立広尾病院等で行い、医療現場におけるアートの可能性を探る活動や、「美術家の視点から見るスウェーデン高齢者の日常生活」等の紹介も行うと共にスウェーデンと日本の文化交流にも積極的に取り組んでいる。千葉県勝浦市役所壁画制作、栃木県立美術館、東京都写真美術館、埼玉県立近代美術館等に作品が収蔵されている。現在、日本とスウェーデン、ストックホルムを中心に教育及び作家活動などを行う。

アドバイザー 江口 三岐子 氏

トークディスカッション

銀の杖（荒川区認知症の人を支える家族の会）代表。30才の時会社を退職後、社会福祉協議会の「友愛訪問員」を皮切りに、ボランティア活動や地域活動に参加。女性問題懇話会等、荒川区の審議会に参加。2006年、越谷で暮らしていた義母がアルツハイマー型認知症と診断され、我が家に同居して貰い介護が始まる。2018年4月、銀の杖（荒川区認知症の人を支える家族の会）代表に就任。「尾久キャラバン・メイト 元気かい」でも活動中。

アドバイザー 阿部 哲夫 氏

トークディスカッション

あべクリニック東京都認知症疾患医療センターセンター長。医療法人社団讃友会 理事長。あべクリニック院長。精神保健指定医。精神神経学会認定専門医、指導医。荒川区医師会理事。荒川区医師会精神保健及び認知症対策委員会委員長、認知症サポート医、社会福祉法人トラムあらかわ理事、荒川区中学校精神科校医など現任。（精神科医）

モデレーター 近藤 康寛 氏

トークディスカッション

あべクリニック東京都認知症疾患医療センター副センター長。東京都認知症対策推進会議（認知症医療支援体制検討部会）委員。荒川区地域ケア会議（中央会議）アドバイザー。荒川区在宅療養連携推進会議委員。地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター「認知症疾患医療センターの質の管理及び地域連携のあり方に関する調査研究事業」研究委員会委員など現任。（精神保健福祉士／社会福祉士）

FAX申込書

送付先：あべクリニック東京都認知症疾患医療センター

FAX 03-5810-7809

フリガナ		電話番号	FAX
氏名	男・女	所属	職種
フリガナ		電話番号	FAX
氏名	男・女	所属	職種
フリガナ		電話番号	FAX
氏名	男・女	所属	職種

申込締切：2020年3月3日（但し、定員に達し次第、締切といたします。）

本研修会は荒川区の認知症カフェ事業補助を受けて運営しています。主催：あべクリニック東京都認知症疾患医療センター